

Economic Trends

発表日: 2024年2月9日(金)

おかず・菓子ランキングに映る地域社会（上編） ～ギョーザ以外の消費項目にも注目～

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 熊野 英生 (Tel: 03-5221-5223)

総務省「家計調査」（2023年、2人以上）を使って、1世帯の食料品の項目の年間消費額の都市別ランキングが話題になっている。有名なのは、ギョーザの消費支出が、浜松市、宮崎市、宇都宮市で上位を争っている。このランキングと同様のことをおかず9品目、スイーツ12品目で行ってみた。そのランキングを通じて、本稿では映し出される地域性に注目してみた。

ランキングには宝が埋まっている

例年、総務省「家計調査」の年報が発表されると、都市別のギョーザ消費支出のランキング1位がどこかが大きく報じられる。2023年は、浜松市が1位、宮崎市が2位、宇都宮市が3位であった。この3強は例年、首位を争っており、ご当地では首位になった年に住民がお祝いをする騒ぎである。筆者などは、データ発表を機に、ご当地グルメが一役買うことについて、地域活性化になるので大歓迎である。

少し厳密なことを解説すると、対象は県庁所在地の47都市とそれ以外の政令指定都市（川崎市、相模原市、堺市、浜松市、北九州市）の5つの地域である。県庁所在地の調査サンプルが30～40と少ないこともあるので、統計的な信頼度が低いことは気になる。しかし、この統計自体が、地域興しにこうした意外な貢献をしていることを考えると、多少は厳密さに目を瞑って、統計的に怪しいなどとは言わない方がよいだろう。むしろ、この種のランキングをもっと活用して、地域の隠れた潜在需要を引き出す発想を持つ方が生産的な姿勢となる。

全国各地に出向くと、時々、この「家計調査」を使った消費支出ランキングを用いて、「今年は〇〇の消費で首位に輝きました」という宣伝文句に出会うことがある。ご当地グルメを売り出すときのアピールに使われているのだ。地域によっては、大きな盛り上がりになって、大きな経済効果を上げているところもありそうだ。そうした様子からは、「家計調査」というデータには、まさしく宝が埋まっていると感じられる。

おかずランキング

そこで一例として、まずは有名なギョーザ以外のおかず（お総菜）についても注目してみた。ギョーザ以外にある8品目（うなぎのかば焼き、サラダ、コロッケ、カツレツ、天ぷら・フライ、やきとり、ハンバーグ）のランキングを調査して、その特徴を考えてみた（図表1）。浜松市は、ギョーザが首位であるが、他のおかずでも上位を占めている。うなぎのかば焼きとハンバーグは首位。カツレツ4位、コロッケ5位である。ここからは、浜松市がギョーザ王国というよりも、おかず大国であることがわかる。浜松市の食文化は豊かで、現地に行くとうなぎなど浜名湖の幸を紹介するお店を多く目にする。それに対して、宇都宮市は浜松市ほど他のおかずでの上位を占めてはいない。宇都宮の方が、ご当地グルメの中でギョーザ依存が高いのだろう。

ほかにも、隠れたおかず大国の地域には、福井市がある。天ぷら・フライ、カツレツはともに首

位。やきとりは2位である。次いで、首位こそ少ないが富山市もコロッケ、カツレツで2位。実は、北陸は油で揚げのおかずが強い。金沢市、新潟市もコロッケ、カツレツで上位を占める。金沢市などに行くと、冬の味覚が豊富で、海産物の競争力が圧倒的に強く、現地の人は逆に夏の食事に目玉がないと嘆く。しかし、北陸ではこのランキングを使って、コロッケなど揚げ物売り出すことができるのではないかと思える。

しゅうまいのランキングは、他のおかずと傾向が違う。横浜市が首位、川崎市が2位、東京都が3位だ。横浜中華街があり、強力なしゅうまい弁当の企業もある。宇都宮市は、ギョーザだけかと思ったが、サラダは首位、しゅうまい、やきとり、ハンバーグも6~9位を占めている。宇都宮もまたグルメ都市であると言える。

(図表1) 1世帯当たりの消費支出の都市別ランキング (おかず)

単位：円/年間

	ギョーザ	うなぎのかば焼き	サラダ	コロッケ	カツレツ
1	浜松市 4,041	浜松市 6,366	宇都宮市 9,782	大津市 3,502	福井市 4,248
2	宮崎市 3,498	静岡市 3,844	富山市 9,357	富山市 3,496	富山市 3,442
3	宇都宮市 3,199	京都市 3,577	新潟市 8,533	福井市 3,480	金沢市 3,145
4	京都市 2,661	堺市 3,457	福島市 8,379	静岡市 3,044	新潟市 3,005
5	大津市 2,489	名古屋市 3,379	さいたま市 8,360	京都市 2,958	浜松市 2,984
6	奈良市 2,440	宇都宮市 3,361	川崎市 8,310	金沢市 2,936	甲府市 2,979
7	名古屋市 2,390	和歌山市 3,236	東京都区部 8,307	奈良市 2,935	静岡市 2,687
8	さいたま市 2,287	大阪市 3,197	浜松市 8,032	堺市 2,814	大阪市 2,615
9	東京都区部 2,204	さいたま市 3,189	静岡市 7,316	神戸市 2,653	東京都区部 2,594
10	大阪市 2,169	鹿児島市 3,144	甲府市 7,236	津市 2,652	盛岡市 2,589

	天ぷら・フライ	しゅうまい	やきとり	ハンバーグ
1	福井市 18,097	横浜市 2,777	青森市 4,677	浜松市 2,636
2	富山市 17,984	川崎市 1,849	福井市 4,299	那覇市 2,380
3	新潟市 16,780	東京都区部 1,666	横浜市 3,814	福島市 2,369
4	浜松市 15,972	静岡市 1,635	さいたま市 3,595	甲府市 2,180
5	山形市 15,307	相模原市 1,537	相模原市 3,583	堺市 2,145
6	青森市 15,299	さいたま市 1,498	宇都宮市 3,479	盛岡市 2,081
7	静岡市 15,297	甲府市 1,447	金沢市 3,473	宇都宮市 2,065
8	宮崎市 14,994	堺市 1,405	甲府市 3,458	水戸市 2,035
9	福島市 14,931	宇都宮市 1,382	山形市 3,423	青森市 2,026
10	大分市 14,779	名古屋市 1,315	東京都区部 3,396	佐賀市 2,007

注：総務省「家計調査」(2023年)から筆者が計算したもの。

スイーツ・ランキング

同様のことをいくつかのお菓子で行ってみた(図表2)。ようかん、まんじゅう、カステラ、ケーキ、ゼリー、プリン、せんべい、ビスケット、キャンデー、チョコレート、チョコレート菓子、アイスクリーム・シャーベット)の12品目である。

地域性が現れるのはカステラである。断トツの消費額は長崎県である。長崎のカステラは説明を要

しない。ようかんの首位は、長野市である。長野県内には様々なようかんがあり、これも地域性が感じられる。富山市のせんべいは、白エビが有名であるのを思い出す。気がつきにくいのは、ビスケットの首位が高知市である点だ。検索すると、高知には強力なビスケット・ブランドがあったと膝を打った。このように、和のスイーツはご当地のスイーツ文化が色濃く出ていて、観光客はその土地で有名な和菓子を楽しむことができる。

(図表2) 1世帯当たりの消費支出の都市別ランキング (スイーツ)

単位：円/年間

	ようかん	まんじゅう	カステラ	ケーキ	ゼリー	プリン
1	長野市 1,841	鳥取市 2,276	長崎市 5,884	さいたま市 9,414	盛岡市 3,127	福島市 2,291
2	東京都区部 1,354	鹿児島市 1,944	津市 1,184	熊本市 9,287	新潟市 2,909	浜松市 2,275
3	福井市 1,339	高松市 1,940	千葉市 1,179	岡山市 8,901	富山市 2,825	岡山市 2,218
4	千葉市 1,304	岡山市 1,794	堺市 1,121	高知市 8,877	前橋市 2,814	金沢市 2,214
5	水戸市 1,207	名古屋市 1,761	東京都区部 1,090	東京都区部 8,843	長崎市 2,809	川崎市 2,193
6	佐賀市 1,176	山口市 1,595	水戸市 1,054	福岡市 8,764	金沢市 2,740	甲府市 2,148
7	新潟市 1,119	福島市 1,482	高松市 1,011	盛岡市 8,760	広島市 2,703	宇都宮市 2,094
8	富山市 1,081	金沢市 1,441	那覇市 983	広島市 8,710	岐阜市 2,664	さいたま市 2,080
9	高知市 1,067	宮崎市 1,372	和歌山市 965	横浜市 8,658	宇都宮市 2,660	盛岡市 2,067
10	宇都宮市 1,042	長崎市 1,325	富山市 962	岐阜市 8,622	水戸市 2,642	大津市 1,991

	せんべい	ビスケット	キャンデー	チョコレート	チョコレート菓子	アイスクリーム・シャーベット
1	富山市 9,781	高知市 8,221	大津市 3,383	奈良市 9,059	福島市 3,246	福島市 14,401
2	水戸市 9,431	大津市 6,724	佐賀市 3,125	盛岡市 8,628	山形市 3,175	金沢市 13,798
3	山形市 9,134	相模原市 6,683	長崎市 3,047	さいたま市 8,392	札幌市 3,162	さいたま市 13,703
4	奈良市 8,616	川崎市 6,587	金沢市 2,996	高知市 8,059	仙台市 3,158	盛岡市 13,499
5	さいたま市 8,314	広島市 6,586	堺市 2,971	岐阜市 7,938	大津市 2,990	山形市 13,340
6	千葉市 8,272	奈良市 6,395	松江市 2,908	富山市 7,877	さいたま市 2,939	宇都宮市 13,153
7	津市 7,964	岡山市 6,279	奈良市 2,888	千葉市 7,803	金沢市 2,934	東京都区部 13,120
8	東京都区部 7,891	東京都区部 6,265	さいたま市 2,852	名古屋市 7,786	奈良市 2,922	大津市 12,938
9	福井市 7,868	富山市 6,265	福岡市 2,809	金沢市 7,765	高知市 2,895	浜松市 12,729
10	宇都宮市 7,854	仙台市 6,214	宮崎市 2,739	京都市 7,763	佐賀市 2,853	鹿児島市 12,667

注：総務省「家計調査」(2023年)から筆者が計算したもの。

明らかな洋菓子の分類では、ご当地色は薄らぐ。福島市は、プリン、チョコレート菓子、アイスクリーム・シャーベットでいずれも首位。日本最強のスイーツ消費地域だ。少し目立ちにくいのは、盛岡市と山形市も上位に食い込んでいる品目が多い。この3地域は、東北の内陸にあるという点で共通している。東北以外では、大津市、金沢市が割に上位にいる。内陸の地域で洋のスイーツの消費量が多いのは、何か理由があるのだろうか。(下編に続く)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。